

# 統計茨城

昭和47年 3 月号

## 目 次

I 卷 頭 言.....	1	III 将来労働力の動向と労働統計.....	16
II 指 標		IV 茨城の産業構造.....	18
主要経済指標.....	2	V 地域農業の問題と農林統計.....	19
人        口.....	4	V  退任のあいさつ.....	21
金        融.....	6	VII 統計ニュース.....	21
農        業.....	8		
鉱 工 業.....	9		
勞        働.....	10		
物        価.....	12		
家        計.....	14		

---

## 利用上の注意

- 1 統計表の数値は原則として単位未満は四捨五入。
- 2 年度は4月から翌年の3月まで。
- 3 記号
  - 零または該当数字のないもの。
  - 0 該当数字が掲載単位未満のもの。
  - … 不詳のもの。
  - p 暫定数字。
  - r 訂正数字。
  - △ 減少または出超を示す。
  - x 秘密保持のため掲載をひかえたもの。

## 統計を利用する立場から

茨城大学教授 高 橋 栄

私は仕事の上でほとんど毎日、統計データを利用している。自分の専門の研究分野に関しては、自分で調査をして統計データを出す、学生への講義の際は既存の統計データを利用する機会が多い。今回は、人口統計について二、三の問題をとりあげてみるが、一片の統計データの背後にも社会的、経済的その他、数多くの要因がかくされていることをよみとらなければ、そのデータを真に理解し得たとはいえない。換言すれば、一片の統計表にも上記のような奥深い事情を秘めており、それをみるものはそこまでよみとるべきであるということになる。

終戦後私達の身近な地域社会でさえ出産の多いことを見聞し、一般的には、ベビーブームの語さえ生まれた、これがはたして茨城県全体、また全国的にはどのくらいの出生数があつたのかつかめない。これをみるには結局、茨城県や全国の統計データによらねばならない。本県の出生率は、昭和の初期までは人口千人に対し、おおむね30台で経過したが、同13年に29.9とはじめて30の大台を割り、翌14年には28.8と低下したが、終戦後の22年には34.3、23年には34.3、24年には32.5と急上昇した。25年には29.3と再び30の大台を割り、下降線をたどっている。このような出生率の急増のうらには、(1)戦時生活が終わつて精神的にある程度の安定感をもつたこと、(2)疎開家族の復帰、(3)国内の産業動員者の復帰、(4)国内外の軍人、軍属の復員等による既婚者の同居、未婚者の結婚ブームなどがあげられる。この出生増が保育所、幼稚園、小・中・高校から大学までの教育施設の不足となり、進学競争を激化することともなつた。この頃に生まれた子ども達は、一生激しい競争場裏にたたされるように運命づけられたのであつた。しかし、その子ども達もそろそろ結婚適令期になつてきたから、再び結婚ブームをよぶことであろうし、幸福な生活を送れるよう祈らずにはいられない。

昭和41年はちょうど、干支でいう丙午の年にあたつていた。わが国には、全国的に“この年に生まれた女性は夫を殺す”という迷信があり、成長後、縁談に支障をきたすというので、妊娠・出産を調節したり、出生しても届出を前年または翌年にずらしたりした。この年の出生数が少なかつたことは、これまた私達が近隣社会で見聞したことであつた。

しかし、見聞だけでは茨城県全体とか、全国の出生数や出生率の実態をつかむことはできない。それにはやはり統計データによらなければ不可能である。よつてこれを統計データについてみると、県の出生率は人口千人に対し昭和36年が16.4、40年が17.2と経過したのに対し、41年は12.6と急激に減少しており、42年はまた18.5と著しい増加を示している。43年、44年とも17.0で推移している。この傾向は、全国的にみても同様であり、いまだ全国的に、これらの迷信が改善されていないことを示すものである。終戦後の出生率をグラフ化すると、ベビーブームの年は富士山の頂上であり、その裾野のように次第に減少してきて、41年は黒部峡谷のようにきわめて急な深い谷をえがいている。41年の谷をはさんで前年の40年が17.2、42年が18.5と両年とも自然堤防のように高くなつてはいるが、当該年の翌年の42年の方が高い数値を示している。全国的にみると40年が18.6、41年が13.7、42年が19.4で、やはり42年の方が高いが茨城県ほどの差はない。この年の出生児はさきにベビーブームの時の子ども達の教育施設の拡充されたあとだけに、試験地獄も前者ほどではなく、あらゆる点で恵まれた環境でのびのびと成育し、就職の際にも、絶対数が少ないだけに、その稀少価値を買われるであろうし、女子の結婚適令期頃には、このような迷信も薄れるであろうから、宿命を背負つた悲愴感もなく案外、楽しい人生街道を歩めるのではないだろうか。

人口に関するごく小部分の二つの問題をとりあげたが当初に述べたように、一片の統計データをよむにつけても、いろいろと複雑な社会事象や個人々の人生までも考えるようになってくるのである。

主要経済指標

主 要 経 経

茨 城 県

年月	財政資金 対民間 収支	銀行勘定		銀行券 増 減	手形交換高		不渡手形		株式 取引高	県民所得	
		実 預 金	貸 出 金		枚 数	金 額	枚 数	金 額		純 生 産	分 配 所 得
	百万円	百万円	百万円	百万円	千枚	百万円	枚	百万円	百万円	百万円	百万円
昭和35年	15,581	75,617	51,718	2,937	198	70,264	2,493	180	33,319	191,333	190,036
36	14,468	94,148	67,838	2,687	230	75,303	2,535	152	48,336	244,863	227,341
37	23,402	115,285	83,675	1,625	274	88,699	4,808	279	60,230	276,693	262,695
38	△25,800	141,041	102,665	△ 998	311	101,448	5,974	319	40,999	297,111	291,117
39	△32,758	165,627	112,699	△ 5,614	355	142,640	8,828	796	19,485	334,028	323,856
40	△37,458	185,609	8,595	△ 6,228	380	147,872	10,404	847	34,770	※393,652	※419,662
41	△42,214	217,545	123,688	△ 179	436	163,444	9,901	835	46,590	※447,505	※481,624
42	△54,001	266,236	146,606	40	484	197,977	8,318	873	40,313	※566,265	※584,122
43	△46,293	311,421	166,962	4,517	533	226,801	9,872	1,121	78,315	※688,471	※699,552
44	△43,975	434,641	239,067	31,081	560	274,201	9,740	1,111	66,850	※806,702	※820,911
45	△44,896	765,166	470,270	...	593	338,391	11,218	1,596	83,727	...	...
46. 1	9,600	△20,222	994	△13,133	4)	29,654	593	73	5,185	...	...
2	△ 891	△ 4,841	3,664	△145	46	29,429	630	122	9,534	...	...
3	△ 1,350	24,531	△ 9,076	1,834	59	34,491	1,112	102	13,392	...	...
4	△11,381	△ 4,327	4,464	524	50	33,784	737	91	16,933	...	...
5	△ 4,561	9,167	4,589	△2,830	51	32,611	823	93	10,861	...	...
6	7,049	7,256	6,838	7,853	156	36,430	883	110	15,195	...	...
7	2,386	6,576	9,221	△4,768	112	46,264	1,633	235	16,867	...	...
8	8,461	1,057	3,168	△3,120	108	43,815	1,848	242	15,158	...	...
9	△10,621	16,460	4,799	△514	107	44,946	1,648	218	7,123	...	...
10	△ 6,954	422	1,462	970	101	43,664	1,450	201	6,280	...	...
11	△14,389	20,805	13,366	1,680	119	47,465	1,998	267	...	...	...
12	△ 2,901	14,837	17,237	18,015	138	62,228	1,574	269	...	...	...

注) ①雇用指数、賃金指数の昭和46年については昭和45年=100とした数値である。 ②※は年度数値

資料：日本銀行水戸事務所 県統計課 県職業安定課

全 国

年月	財政資金 対民間 収支	全国銀行主要勘定		全国銀行 貸出約定 平均金利	銀行券 発行高	手形交換高		不渡手形	
		実質預金	貸出金			枚 数	金 額	枚 数	金 額
	億円	億円	億円	(%)	億円	千枚	億円	千枚	億円
昭和35年	※△ 51	78,990	81,826	8.17	12,341	203,728	669,673	2,172	1,852
36	※ 4,909	90,796	97,701	8.00	14,801	221,016	862,205	2,121	2,084
37	※△2,033	106,720	114,946	8.21	17,459	242,368	1,016,246	2,525	2,805
38	※△ 614	136,996	145,626	7.79	20,574	265,933	1,189,982	2,878	3,492
39	※△4,394	156,533	168,297	7.90	22,988	290,466	1,430,983	3,726	5,271
40	※△2,662	183,754	192,179	7.80	25,638	302,975	1,510,970	4,077	5,574
41	※ 2,220	213,186	220,460	7.48	29,135	327,352	1,646,702	3,830	5,540
42	※ 752	240,650	253,230	7.32	34,115	346,690	1,885,942	3,746	6,435
43	※△3,478	281,893	290,328	7.46	40,419	364,011	2,252,989	3,752	7,371
44	※△1,312	328,541	337,844	7.41	48,113	379,264	2,620,324	3,274	6,218
45	※1,447	380,094	394,793	7.66	55,560	394,166	3,189,805	3,407	7,796
46. 1	9,164	369,726	398.211	7.685	47,966	25,481	237,865	198	441
2	699	373,826	402,775	7.676	49,247	30,397	258,504	246	576
3	△3,065	392,048	411,751	7.663	49,748	36,600	342,184	362	819
4	△6,544	398,221	414,179	7.655	49,963	32,080	303,015	289	683
5	△4,039	411,923	422,003	7.640	48,473	32,762	287,228	298	711
6	△ 926	420,229	431,980	7.618	52,089	35,850	309,659	281	748
7	2,396	425,491	442,104	7.598	52,689	34,143	307,446	288	694
8	△11,070	436,988	448,552	7.573	51,483	32,452	321,175	265	619
9	△3,919	450,829	457,355	7.543	51,299	32,250	316,929	268	703
10	△1,977	448,918	463,130	7.251	51,561	30,582	290,090	199	491
11	△7,228	469,522	470,904	7.488	52,250	34,521	318,956	234	549
12	△5.25	...	...	...	64,077	...	...	...	...

注) ※は年度数値

資料：日本銀行統計局 通商産業省 総理府統計局

濟 指 標

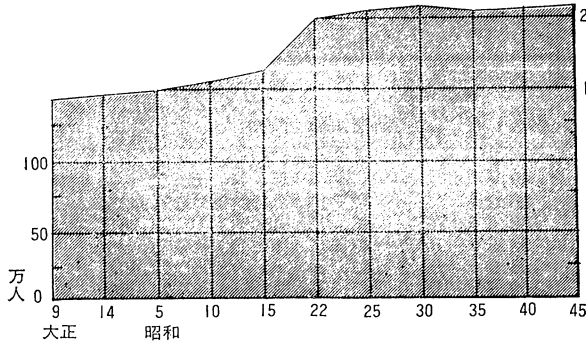
百貨店 売上高	鉱工業 生産指数 (総合)	建築着工		雇用指数 (総合)	賃金指数 (総合)	消費者 物価指数 (水戸・総 合・平均)	労働市場			年月
		工事費 予定額	床面積				新規求職 人	新規求人 人	失業保険被 保険者総数 人	
百万円		百万円	千㎡							
—	66.9	11,170	910	66.1	68.4	—	—	—	—	昭和35年
2,975	84.7	12,670	1,037	70.5	86.2	—	40,616	64,919	191,435	36
3,354	84.4	16,089	1,149	74.9	100.0	—	46,273	46,079	198,261	37
3,770	92.3	20,244	1,297	83.1	103.6	88.7	43,615	51,423	203,670	38
4,341	97.0	22,551	1,419	90.1	105.9	91.5	43,724	55,018	223,904	39
4,799	100.0	27,632	1,581	100.0	100.0	100.0	42,433	42,684	224,096	40
5,472	110.8	31,319	1,746	113.3	93.5	104.4	41,509	54,048	230,225	41
7,427	135.8	49,094	2,523	130.3	94.2	107.9	41,518	70,569	241,722	42
8,686	149.4	78,198	3,389	154.6	103.6	114.9	40,173	68,369	254,759	43
11,396	175.9	106,653	4,175	177.6	109.1	122.3	40,124	80,277	277,854	44
13,108	...	...	...	207.2	141.1	132.0	42,154	78,980	294,646	45
1,032	204.7	11,968	396	105.5	101.2	138.9	4,806	6,532	295,773	46. 1
971	229.6	12,242	340	107.8	101.0	139.0	4,034	5,103	296,848	2
1,297	244.3	11,471	385	105.8	101.1	138.6	4,469	6,288	297,074	3
1,112	222.6	12,849	407	109.8	101.9	142.0	3,848	5,435	302,238	4
1,071	202.1	12,798	352	105.5	101.7	142.1	3,462	5,270	306,412	5
996	228.6	17,488	391	118.5	101.8	141.1	3,657	4,372	309,024	6
1,153	243.9	15,494	466	119.5	102.5	141.9	3,830	5,405	309,697	7
897	230.2	15,737	358	111.0	102.0	142.1	4,070	5,785	308,408	8
943	241.0	13,312	420	121.0	100.2	149.0	5,152	7,079	306,768	9
1,183	236.5	15,341	428	...	...	149.5	3,693	5,956	307,005	10
1,177	244.6	13,885	416	...	...	136.0	...	...	...	11
2,014	...	...	...	...	...	...	...	...	...	12

国民総生産		百貨店 売上高	鉱工業 生産指数 (総合)	建築着工		雇用指数 (名目・ 製造業)	賃金指数 (常用・ 製造業)	消費者 物価指数	失業保険 被保険者 総数	年月
名目	実質			工事費 予定額	床面積					
億円	億円	億円		億円	千㎡				千人	
162,070	203,483	4,075	57.8	8,089	61,461	61.8	74.3	—	12,385	昭和35年
198,528	232,751	5,006	69.0	12,077	76,872	68.9	83.5	—	13,872	36
216,595	246,095	5,818	74.8	13,822	76,645	75.4	89.5	—	15,264	37
255,759	277,636	6,788	83.3	16,259	86,835	83.2	93.1	90.3	16,237	38
295,305	306,436	7,701	96.4	22,602	102,663	92.0	97.8	93.8	17,349	39
326,504	322,945	8,603	100.0	22,558	102,300	100.0	100.0	100.0	18,035	40
381,179	359,901	9,563	113.2	24,642	109,737	111.6	100.6	105.1	18,614	41
448,015	407,007	11,047	135.2	33,282	137,398	126.3	103.9	109.3	19,337	42
527,882	462,935	12,839	159.2	42,889	160,470	145.1	108.2	115.1	20,064	43
624,333	521,404	15,142	185.9	53,401	182,748	168.9	112.0	121.1	20,765	44
727,177	p571,944	18,242	215.9	66,697	205,034	198.7	115.6	130.4	21,173	45
176,940	...	1,393	208.0	7,724	18,566	166.0	115.2	136.6	20,926	46. 1
		1,352	220.0	3,978	11,635	160.9	114.5	136.1	20,882	2
180,905	...	1,823	239.8	5,004	14,062	161.5	114.7	135.6	20,956	3
		1,574	222.8	5,388	15,429	165.6	117.8	137.8	21,290	4
188,454	...	1,485	210.0	5,134	14,649	171.1	117.1	137.6	21,594	5
		1,520	229.7	5,964	16,625	281.3	116.8	137.5	21,793	6
...	...	2,192	230.7	6,690	18,690	346.8	p116.3	138.2	...	7
		1,459	217.8	6,403	17,637	204.5	p115.5	138.6	...	8
...	...	1,470	236.7	6,643	17,654	181.6	p114.9	143.9	...	9
		1,838	230.8	6,708	17,688	180.6	p114.3	141.9	...	10
...	...	1,823	...	7,075	17,866	188.4	114.4	140.4	...	11
		...	...	...	...	...	...	...	...	12

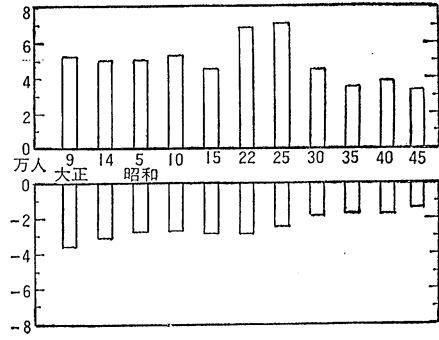
人 口

1 人 口

人口の推移



出生と死亡の推移



1-1 人口、世帯および人口移動

年 月 日	世 帯 数	人 口			人 口 移 動				
		総 数	男	女	増減数	自 然 動 態		社 会 動 態	
						出 生	死 亡	転 入	転 出
大正 9. 10. 1.	269,860	1,350,400	662,128	688,272		52,291	35,960	—	
14	276,120	1,409,092	693,837	715,255	△38,225	50,937	31,034	(-)58,128	
昭和 5	279,895	1,487,097	734,059	753,038	△31,227	50,445	27,308	(-)54,564	
10	286,471	1,548,991	766,423	782,568	△22,614	53,532	27,274	(-) 2,447	
15	287,677	1,620,000	801,914	818,086	1,393	45,148	29,101	(-) 9,853	
22	376,758	2,013,735	974,289	1,039,446	72,902	69,164	28,475	(-)32,213	
25	375,861	2,039,418	933,694	1,045,724	△ 8,034	60,325	24,784	(-)56,184	
30	382,315	2,064,037	1,006,093	1,057,944	△ 2,440	44,592	18,732	19,545	
35	409,465	2,047,024	1,000,184	1,046,840	291	35,664	17,709	17,704	
40	447,871	2,056,154	1,007,852	1,048,302	7,761	34,447	16,533	(-)10,153	
45. 12. 1	511,432	2,151,742	1,059,087	1,092,655	3,751	3,172	1,308	9,115	7,228
46. 12. 1	527,488	2,186,046	1,078,186	1,107,860	2,809	3,199	1,354	9,203	8,239

資料：県統計課 注) 人口移動のうち①大正9年～昭和40年については各年の年間数値を示す。  
 ②昭和45年12月、46年12月の人口移動については45年11月、46年11月の月間数値を示す。

1-2 市町村別人口

市 町 村	昭和35年 10月	40年10月	45年12月	46年12月	市 町 村	昭和35年 10月	40年10月	45年12月	46年12月
総 数	2,047,024	2,056,154	2,151,742	2,186,046	竜ヶ崎市	33,581	34,917	37,380	37,638
市 部	881,682	932,336	1,032,357	1,078,186	那珂湊市	34,522	33,620	32,836	32,804
郡 部	1,165,342	1,123,818	1,119,385	1,107,860	下妻市	30,011	28,260	27,725	27,739
水戸市	139,389	154,983	174,448	179,462	水海道市	37,577	36,584	36,681	36,920
日立市	161,226	179,703	193,842	197,025	常陸太田市	38,541	36,974	35,448	35,398
土浦市	71,474	78,971	90,425	92,851	勝田市	43,286	52,625	67,144	70,611
古河市	42,474	50,202	54,175	54,731	高萩市	32,816	32,497	29,592	29,567
石岡市	34,758	36,789	39,638	40,312	北茨城市	60,507	55,334	48,278	46,255
下館市	51,257	51,717	53,927	54,668	笠間市	32,143	31,082	30,520	30,667
結城市	38,060	38,078	39,633	40,178	取手市	22,582	26,179	40,665	42,858

人 口

市 町 村	昭和35年 10月	40年10月	45年12月	46年12月	市 町 村	昭和35年 10月	40年10月	45年12月	46年12月
東茨城郡	<b>134,192</b>	<b>128,687</b>	<b>127,965</b>	<b>127,965</b>	稲敷郡	<b>112,565</b>	<b>110,082</b>	<b>112,213</b>	<b>114,348</b>
常澄村	9,850	9,393	9,075	9,098	江戸崎町	13,017	12,266	12,120	12,114
茨城町	30,845	29,439	28,996	29,112	美浦村	9,178	8,411	8,060	8,077
小川町	15,762	15,447	16,711	16,754	阿見町	22,326	23,390	24,980	25,745
美野里町	14,680	14,381	14,866	14,954	牛久町	16,131	17,203	19,512	20,977
内原町	12,921	12,695	12,969	12,906	茎崎村	6,338	6,253	6,477	6,570
常北町	11,832	11,154	10,781	10,787	新利根村	9,489	8,943	8,617	8,590
桂村	8,785	7,938	7,140	7,049	河内村	13,065	12,158	11,731	11,674
御前山村	7,227	6,425	5,746	5,610	桜川村	8,900	8,178	7,857	7,841
大洗町	22,290	21,815	21,681	21,695	東村	14,121	13,280	12,859	12,760
西茨城郡	<b>59,662</b>	<b>58,685</b>	<b>59,445</b>	<b>59,591</b>	新治郡	<b>83,382</b>	<b>79,312</b>	<b>80,577</b>	<b>81,139</b>
友部町	19,007	19,714	20,483	20,680	出島村	18,260	16,861	16,566	16,690
岩間町	13,656	13,719	14,124	14,155	玉里村	5,233	5,080	5,471	5,474
七会村	4,029	3,469	3,161	3,078	八郷町	30,670	28,741	27,416	27,291
岩瀬町	22,970	21,783	21,677	21,678	千代田村	11,620	11,451	13,792	14,217
那珂郡	<b>105,533</b>	<b>103,571</b>	<b>104,260</b>	<b>105,428</b>	新治村	8,400	8,240	8,370	8,449
東海村	13,978	16,565	19,148	20,548	桜村	9,199	8,939	8,962	9,018
那珂町	30,556	30,006	31,315	31,501	筑波郡	<b>89,642</b>	<b>84,937</b>	<b>83,928</b>	<b>85,742</b>
瓜連町	6,988	6,832	7,027	7,091	谷田部町	20,570	20,093	20,134	20,375
大宮町	24,594	23,635	23,364	23,279	伊奈村	12,010	11,241	11,282	12,678
山方町	13,016	11,805	10,551	10,364	谷和原村	10,746	10,062	9,922	9,963
美和村	8,364	7,515	6,576	6,402	豊里町	11,165	10,497	10,417	10,440
緒川村	8,037	7,213	6,279	6,243	筑波町	23,817	22,091	21,303	21,389
久慈郡	<b>74,230</b>	<b>67,875</b>	<b>60,564</b>	<b>59,377</b>	大穂町	11,334	10,953	10,870	10,897
金砂郷村	14,748	13,554	12,213	12,040	真壁郡	<b>76,660</b>	<b>73,394</b>	<b>72,020</b>	<b>72,044</b>
水府村	11,636	10,580	9,301	9,008	関城町	14,979	14,368	14,273	14,298
里美村	7,668	6,980	6,103	6,002	明野町	17,513	16,682	16,103	16,079
大子町	40,178	36,761	32,947	32,327	真壁町	21,959	20,809	20,300	20,298
多賀郡	<b>11,006</b>	<b>10,346</b>	<b>9,644</b>	<b>9,692</b>	大和村	8,064	7,522	7,220	7,174
十王町	11,006	10,346	9,644	9,692	協和町	14,145	14,016	14,124	14,195
鹿島郡	<b>118,457</b>	<b>113,010</b>	<b>131,214</b>	<b>139,145</b>	結城郡	<b>52,189</b>	<b>49,080</b>	<b>48,202</b>	<b>48,378</b>
旭村	11,747	10,759	10,155	10,111	八千代町	24,438	22,687	21,928	21,942
鉾田町	28,657	26,939	26,125	26,252	千代川町	8,447	7,912	7,785	7,793
大洋村	10,212	9,331	8,830	8,876	石下町	19,304	18,481	18,489	18,643
大野村	10,679	9,779	9,532	9,842	猿島郡	<b>119,892</b>	<b>117,272</b>	<b>123,721</b>	<b>126,655</b>
鹿島町	16,132	16,305	26,456	29,553	総和町	20,703	21,023	25,385	27,087
神栖町	16,326	15,820	22,571	25,089	五霞村	9,157	8,668	8,390	8,371
波崎町	24,704	24,077	27,545	29,422	三和町	19,269	18,380	18,482	18,761
行方郡	<b>72,016</b>	<b>68,169</b>	<b>68,618</b>	<b>69,118</b>	猿島町	14,810	14,053	13,629	13,655
麻生町	20,182	18,852	18,070	18,023	猿井町	33,366	33,459	36,003	36,610
牛堀町	6,796	6,466	6,596	6,738	境町	22,587	21,689	21,832	22,171
潮来町	17,671	17,111	19,452	20,115	北相馬郡	<b>33,334</b>	<b>33,219</b>	<b>37,014</b>	<b>37,740</b>
北浦村	12,401	11,611	10,943	10,719	守谷町	11,449	11,475	12,353	12,652
玉造町	14,966	14,129	13,557	13,523	藤代町	12,606	13,002	16,418	16,867
					利根町	9,279	8,742	8,243	8,221

注) 35年, 40年は国勢調査結果。ただし, 45年, 46年については推計人口。

資料: 県統計課

金融

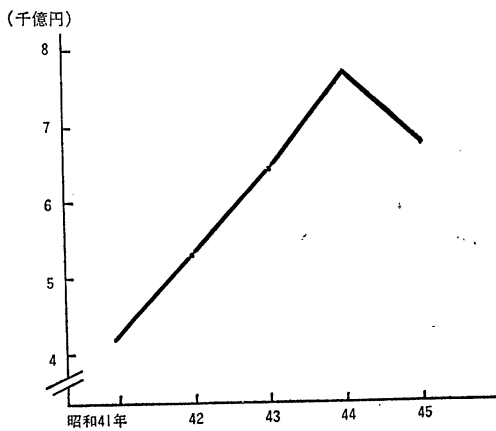
2 金融

2-1 金融機関預金

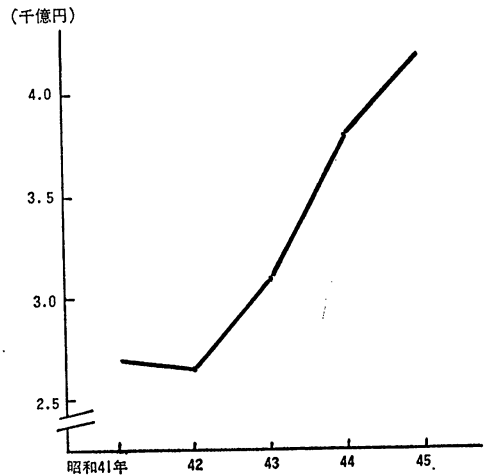
年 月	総 額				銀 行		相 互 銀 行		信 用 金 庫	
	預 金	対前年 同月比	貸 出 金	対前年 同月比	預 金	貸 出 金	預 金	貸 出 金	預 金	貸 出 金
昭和41年12月末	41,967	—	27,277	—	21,490	12,289	3,340	2,431	2,952	2,161
42	52,846	124.2	26,731	124.1	26,386	14,582	4,077	2,931	3,727	2,812
43	63,887	—	31,407	—	30,816	16,607	5,016	3,609	4,407	3,243
44	77,765	121.7	38,346	122.1	36,589	20,496	6,518	4,553	5,496	4,082
45	p68,365	p87.9	p42,989	p112.1	p43,539	25,691	8,168	5,952	6,843	5,170
46・1	65,232	...	46,039	...	44,017	25,920	8,802	6,471	6,977	5,706
2	70,357	...	48,777	...	45,603	26,070	9,026	6,623	7,707	6,324
3	92,263	...	50,541	...	46,774	28,925	10,231	7,040	7,924	6,675
4	96,700	...	51,840	...	49,014	29,035	11,772	7,564	8,308	6,970
5	102,547	...	51,498	...	52,863	31,782	12,437	7,775	8,475	7,109
6	91,251	...	48,398	...	46,488	27,166	8,693	6,492	7,177	5,388
7	92,786	...	49,231	...	47,157	28,098	8,657	6,612	7,307	5,465
8	92,954	...	49,271	...	46,598	28,131	8,752	6,726	7,453	5,558
9	96,447	...	50,355	...	48,147	28,603	9,281	7,044	7,644	5,671
10	108,757	...	56,098	...	47,884	28,451	9,279	7,209	7,730	5,765
11	112,171	...	56,528	...	50,791	29,344	9,423	7,224	7,871	5,963
12	...	...	...	...	52,347	31,054	10,236	7,757	8,546	6,303

資料；大蔵省関東財務局水戸財務部 注) 46年9月まで総額の中には農協分を含まない。

金融機関預金残高の推移



金融機関貸出金残高の推移



金 融

・ 貸 出 残 高

(単位：千万円)

信用組合		農 協		農林中金・商工中金		労 働 金 庫		郵便局	年 月
預 金	貸 出 金	預 金	貸 出 金	預 金	貸 出 金	預 金	貸 出 金	預 金	
1,991	1,749	4,232	1,525	1,805	936	286	178	5,982	昭和41年12月末
2,644	2,210	5,448	1,829	2,242	1,066	369	229	7,360	42
3,212	2,614	7,288	2,563	3,112	1,190	455	277	9,131	43
3,954	2,993	9,211	4,463	4,169	1,340	564	416	11,262	44
4,951	4,119	...	...	4,124	1,443	730	614	13,708	45
5,031	4,438	...	...	4,546	1,450	744	663	14,030	46・1
5,769	4,909	...	...	4,807	1,503	762	692	14,783	2
5,977	5,530	...	...	5,008	1,597	804	774	15,545	3
6,039	5,635	...	...	5,079	1,789	885	847	15,603	4
6,402	5,904	...	...	5,493	1,938	907	985	15,970	5
5,042	3,737	...	...	2,663	1,728	803	673	14,828	6
5,082	3,767	...	...	2,711	1,470	827	683	15,236	7
5,179	3,824	...	...	2,643	1,483	843	689	15,406	8
5,533	3,937	...	...	2,941	1,535	831	690	15,631	9
5,363	3,952	...	...	3,638	1,482	832	703	15,772	10
5,443	4,026	...	...	4,127	1,489	850	690	15,850	11
6,087	4,265	...	...	4,189	1,567	939	709	16,789	12

注) 農協には信連、漁信連、漁協を含む。

2-2 業種別貸出先数および貸出残高

(単位：百万円)

産 業	40年3月		43年3月		44年3月		45年3月		46年3月	
	貸 出 先 数	金 額	貸 出 先 数	金 額	貸 出 先 数	金 額	貸 出 先 数	金 額	貸 出 先 数	金 額
合 計	36,375	114,351	49,636	146,887	58,968	173,862	82,723	211,904	100,249	265,186
製 造 業	5,413	56,255	5,960	60,322	6,319	68,908	6,729	79,479	7,034	98,106
食 料 品	1,583	7,557	1,448	10,407	1,446	11,364	1,457	12,033	1,350	12,780
織 維 品	576	4,225	631	4,148	687	4,396	717	4,683	729	5,326
木 材 ・ 木 製 品	1,007	3,271	1,111	4,626	1,106	5,221	1,148	5,671	1,121	6,378
化 学 工 業	88	5,956	77	6,167	91	7,548	110	8,967	149	11,454
非 鉄 金 属	19	3,792	35	4,629	32	5,607	36	5,772	57	6,512
電 気 機 械 器 具	332	13,196	411	10,196	453	11,913	494	14,807	559	18,597
輸 送 用 機 械 器 具	53	4,327	64	5,727	75	6,100	91	6,530	100	7,694
農 業	9,527	2,213	12,641	3,557	14,885	4,745	17,596	5,906	18,441	6,800
林 業	40	113	44	131	63	166	65	133	53	171
漁 業 ・ 水 産 養 殖 業	176	1,475	215	1,753	219	1,987	267	1,787	348	1,628
鉱 業	142	3,622	122	3,047	144	3,495	156	3,866	137	4,564
建 設 業	927	3,765	1,714	5,561	1,993	7,038	2,557	8,966	3,196	11,107
卸 売 小 売 業	11,029	27,278	12,886	44,069	13,075	51,429	14,143	61,067	14,291	72,852
卸 売	2,110	15,228	2,169	22,906	2,295	25,615	2,479	29,514	2,616	35,559
小 売	8,919	12,050	10,717	21,163	10,780	25,814	11,664	31,553	11,675	37,293
金 融 ・ 保 險 業	47	2,143	51	1,118	57	1,419	48	896	44	891
不 動 産 業	105	4,538	210	6,859	262	9,152	318	16,401	385	26,874
運 輸 通 信 業	420	3,007	555	2,366	591	3,183	692	4,865	713	5,989
電 気 ・ ガ ス ・ 水 道 業	4	159	8	314	15	286	25	487	32	693
サ ー ビ ス 業	2,240	6,620	3,466	9,960	4,078	11,722	4,529	13,463	4,843	17,337
そ の 他	6,305	3,163	11,764	7,830	17,267	10,332	35,598	14,588	50,732	18,174

資料：日本銀行統計局 但し製造業の内訳は主要なもののみ。また、その他は地方公共団体、個人の合計。



農 業

3 農 業

3-1 農産物の平均販売価格

(単位：円)

年 月	うるち米 (玄米60kg)	小 麦 (玄麦3等 程度60kg)	ばれいしよ (男爵10kg)	だいこん (葉付10kg)	生 乳 (飲用10kg)	鶏 卵 (10kg)	肉 豚 (生体10kg)	乳用牛 (めす・生 後4月~6 月ホルス タイン純 種)
昭和40年12月	6,460	2,042	233	196	385	1,935	2,199	45,615
41	6,350	2,124	266	207	407	1,896	1,910	57,777
42	7,264	2,067	240	159	...	2,189	2,324	62,875
43	7,667	2,393	250	95	491	2,002	2,929	71,067
44	8,467	2,408	266	130	500	2,341	2,469	66,330
45	8,233	2,505	273	250	498	2,386	2,698	63,000
46. 1	8,233	...	...	...	498	1,755	2,124	63,400
2	8,233	...	...	...	471	2,017	2,503	63,400
3	8,267	...	...	...	485	1,866	2,671	63,400
4	8,167	...	...	...	492	1,621	2,739	64,500
5	8,117	...	...	...	497	1,703	2,800	64,500
6	7,800	...	450	...	499	1,665	2,970	65,500
7	7,867	3,857	250	...	503	1,603	2,552	66,000
8	7,867	3,857	...	...	533	1,702	2,734	69,667
9	8,467	3,857	...	...	533	2,188	3,031	69,667
10	8,433	...	...	367	533	1,924	2,627	69,667
11	8,433	...	...	260	533	1,959	2,655	69,667
12	8,433	...	...	280	533	2,277	2,604	69,667
1	8,433	...	...	..	523	1,562	2,545	69,667

資料：関東農政局茨城統計調査事務所 注) 昭和43年以降の価格は、それぞれの代表生産地における価格である。

3-2 農業用品の購入価格

(単位：円)

年 月	乳用牛 (成畜めす ホルスタ イン純種)	子 豚 (めす・生 後50~70 日中ヨー グシャー)	硫 安 (N21%か ます40kg)	過りん酸 灰 (かます40 kg可溶性 りん酸17 %)	複合肥料 (N8%. P 8%. K5 %30kg)	配合飼料 (成鶏用20 kg粗たん 白15%以 上)	配合飼料 (乳牛用30 kg粗たん 白13%以 上)	バラチ オン剤 (46.6又は 46.7%乳 剤 単位 100cc)
昭和40年12月	152,701	5,446	800	561	807	797	1,028	191
41	171,375	3,904	801	572	710	802	1,024	188
42	216,625	5,927	774	582	612	797	1,015	173
43	246,250	8,600	748	582	666	778	1,078	190
44	201,250	7,750	728	576	656	794	1,055	200
45	193,750	6,200	723	638	621	945	746	200
46. 1	193,750	5,800	723	638	621	945	746	200
2	193,750	6,600	723	648	621	945	746	200
3	193,750	6,408	723	638	621	945	746	200
4	201,040	6,670	723	640	621	945	746	200
5	194,100	6,940	723	640	621	945	746	200
6	200,090	7,014	723	640	621	945	746	200
7	205,000	9,875	723	660	640	945	764	200
8	205,000	10,000	743	660	638	951	764	...
9	205,000	10,125	736	665	638	951	764	...
10	205,000	8,625	736	665	638	935	758	...
11	205,000	8,375	736	665	638	935	752	...
12	202,500	8,375	736	665	638	935	752	...
1	205,000	7,875	724	653	633	916	733	...

資料：関東農政局茨城統計調査事務所 注) 昭和43年以降の価格は農業地域代表市町村の価格である。  
昭和43年以後子豚の価格はランドレース (F1ランドレース系) 60~90日程度の価格である。

4 鉱工業

4-1 鉱工業生産指数

(昭和40年=100)

年月	産業総合	公益事業	鉱工業	製造工業								
				鉱業	石炭・ 亜炭	炭・ 鉄業	金属鉄業	非金属 鉄業	製造工業	鉄鋼業	非鉄金 属工業	金属製 品工業
品目数	123	2	121	8	1	5	2	113	5	7	5	15
ウエイト	100.0	0.39	99.61	5.48	56.59	28.34	15.07	94.52	1.72	7.31	3.27	8.48
昭和35年	67.0	92.6	66.8	87.2	91.0	87.6	54.9	64.9	62.6	52.5	—	51.0
36	84.7	89.7	84.6	89.8	92.6	90.9	66.0	84.2	80.4	73.6	—	79.4
37	84.5	90.0	84.4	90.3	90.2	98.6	68.6	83.9	80.4	56.6	—	74.3
38	92.3	77.9	91.6	92.2	92.6	99.8	76.7	91.5	83.8	72.8	—	86.3
39	97.0	95.3	97.1	99.0	95.6	100.4	111.2	92.5	106.8	101.3	—	101.0
40	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	—	100.0
41	110.8	266.9	110.2	101.2	107.0	104.2	73.7	110.7	117.1	107.7	157.6	105.7
42	135.8	617.7	133.9	98.9	99.5	100.6	93.8	135.9	133.9	130.5	173.2	132.3
43	149.4	427.8	147.5	92.1	86.7	96.7	103.6	150.8	138.2	134.3	130.7	149.4
44	175.9	585.4	174.3	97.0	89.1	98.9	123.3	178.8	174.7	154.8	211.5	205.8
45	194.1	522.1	192.8	96.9	87.9	94.0	136.1	198.4	251.5	149.6	199.1	283.5
46.1	204.7	1,475.5	199.7	95.1	91.3	89.2	120.1	205.8	237.1	138.1	299.8	245.6
2	229.6	2,477.1	220.8	96.0	95.4	92.6	104.9	228.0	269.9	135.4	272.5	331.4
3	244.3	2,530.7	235.3	112.6	112.9	102.1	131.4	242.4	260.9	145.6	240.0	325.5
4	222.6	2,368.1	214.2	98.5	91.7	97.8	125.3	220.9	264.3	171.6	302.3	275.4
5	202.1	2,610.0	192.7	89.5	79.3	95.0	117.6	198.7	230.9	150.0	323.4	249.8
6	228.6	2,431.6	220.0	102.4	96.2	102.0	126.8	226.8	292.3	153.9	323.5	299.5
7	243.9	3,901.9	229.6	104.4	102.6	97.5	123.9	236.9	292.7	147.9	262.3	275.2
8	230.2	4,518.0	213.4	81.5	61.8	90.2	138.8	221.0	256.2	140.6	188.8	231.3
9	241.0	4,110.4	225.9	74.4	58.6	90.4	103.4	234.7	287.2	118.8	239.8	337.6
10	236.5	4,566.5	219.6	75.2	55.9	83.3	132.4	228.0	273.9	126.6	272.5	281.8
11	244.6	5,054.6	225.8	69.6	48.4	77.9	133.5	234.9	284.5	133.7	263.0	226.8

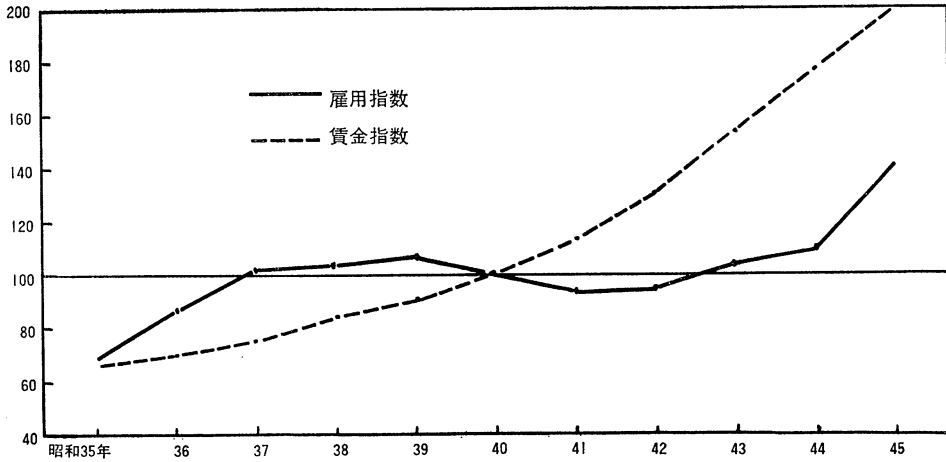
年月	製造工業											
	機械工業			窯業 土石 製品工業	化学 工業	石油石 炭製品 工業	皮革 工業	パルプ・ 紙・紙加 工品工業	繊維工業	木材 木製品 工業	食料品 たばこ 工業	その他 の工業
	電気機械	輸送機械	精密機械									
品目数	24	5	5	4	11	1	2	3	12	1	10	8
ウエイト	38.91	2.04	2.69	4.69	2.72	0.18	0.48	1.26	10.55	3.18	12.38	6.80
昭和35年	71.9	26.0	9.3	85.1	93.3	13.0	37.5	51.2	77.6	81.2	...	43.1
36	103.4	50.4	14.5	85.4	99.8	12.5	44.2	61.7	110.4	86.7	...	56.1
37	101.9	56.0	60.7	84.1	84.7	112.2	64.6	76.6	128.2	91.4	...	114.2
38	104.4	69.5	99.0	85.7	88.0	00.4	82.7	83.0	137.1	87.7	...	162.2
39	102.2	80.7	120.9	91.8	92.8	197.3	93.1	99.4	110.1	92.6	...	169.6
40	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	00.0	100.0	100.0	100.0	100.0	...	100.0
41	110.3	115.2	108.0	102.1	116.5	93.5	85.8	127.5	98.3	108.5	...	115.9
42	137.5	147.4	106.0	111.0	121.6	74.7	64.7	144.3	106.3	105.9	...	136.3
43	176.8	193.6	78.2	124.8	135.2	91.1	71.9	160.8	139.6	110.4	...	121.3
44	188.2	231.1	78.0	126.5	198.1	81.8	74.3	188.7	181.7	124.6	191.2	166.9
45	194.4	265.0	91.7	134.4	308.2	81.5	77.0	207.2	195.3	170.4	208.3	195.9
46.1	176.4	233.0	78.1	105.9	925.0	103.3	71.8	205.8	215.4	164.0	224.0	170.5
2	202.1	260.7	84.3	150.7	962.6	67.1	64.7	181.2	227.8	164.0	227.4	195.3
3	215.8	337.6	107.6	161.2	1,054.4	65.0	79.5	224.3	184.9	177.7	265.9	204.4
4	195.7	227.5	96.6	127.1	1,061.6	65.8	191.7	204.5	145.2	155.8	207.7	201.6
5	150.4	187.0	100.8	108.3	955.3	62.8	104.6	192.5	193.9	158.5	200.1	244.1
6	172.0	253.3	98.7	120.0	1,382.8	65.4	89.2	205.8	156.5	155.8	209.7	261.6
7	194.7	258.9	80.8	131.2	1,353.5	67.1	88.2	184.7	186.0	164.0	218.0	314.7
8	202.6	212.3	67.0	141.9	1,262.6	75.9	87.6	168.1	170.1	147.6	180.0	269.2
9	211.7	293.6	48.8	122.6	1,221.5	77.0	92.1	201.0	161.8	153.1	179.3	307.2
10	186.3	365.5	72.0	126.2	1,332.7	84.7	87.1	207.6	168.8	150.3	191.7	294.1
11	197.9	327.0	70.5	143.2	1,361.6	78.1	99.2	210.7	186.6	155.9	194.6	331.8

資料：県統計課

5 労働

産業別雇用・賃金指数の推移

(昭和40年=100)



5—2 産業別雇用

年 月	合 計				鉱 業		建 設 業		製 造 業	
	雇 用	対前月(年)比較	賃 金	対前月(年)比較	雇 用	賃 金	雇 用	賃 金	雇 用	賃 金
基準年次実数	155,584	—	32,542	—	12,196	37,797	6,047	30,625	103,093	29,999
昭和35年	68.4	—	66.1	—	93.0	60.4	88.9	53.7	60.4	68.2
36	86.2	17.8	70.5	4.4	92.3	66.8	114.7	62.9	82.0	74.6
37	100.6	13.4	74.9	4.4	93.3	71.5	114.6	66.5	101.6	77.3
38	103.6	3.0	83.1	8.2	92.2	83.4	117.9	77.0	102.9	85.4
39	105.9	2.3	90.1	7.0	96.8	91.3	112.9	91.5	105.7	90.2
40	100.0	△5.9	100.0	9.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
41	93.5	△6.5	113.3	13.3	105.8	107.3	84.3	98.9	93.9	116.2
42	94.2	0.7	130.3	17.0	97.2	119.4	71.7	123.1	98.7	136.1
43	103.6	9.4	154.7	24.4	87.2	139.0	78.2	145.0	112.9	164.0
44	109.1	5.5	177.6	22.9	81.8	167.7	79.1	164.9	120.7	190.0
45	141.1	32.0	207.2	29.6	40.9	206.8	158.9	224.8	147.5	215.2
46.1	101.2	1.2	105.5	5.5	96.4	106.5	112.4	104.7	101.4	104.9
2	101.0	△0.2	107.8	2.3	94.8	107.8	113.0	105.7	101.1	108.2
3	101.1	0.1	105.8	△2.0	92.2	113.0	111.1	106.2	100.5	105.1
4	101.9	0.8	109.8	4.0	88.0	107.0	106.8	109.2	101.3	109.7
5	101.7	△0.2	105.5	△4.3	85.1	110.0	101.6	106.0	101.6	104.4
6	101.8	0.1	118.3	12.8	82.5	108.2	98.9	117.4	101.3	120.0
7	102.5	0.7	119.5	1.2	82.6	123.3	98.8	122.5	102.4	120.7
8	102.0	△0.5	118.0	△8.5	44.9	124.4	98.9	124.0	101.4	118.7
9	100.2	△1.8	121.0	10.0	45.2	126.6	100.9	122.3	100.6	122.0
10	99.6	...	121.3	...	45.9	133.4	97.4	125.0	99.7	121.7

資料：県統計課 注) ①規模30以上の事業所 ②昭和46年については昭和45年平均=100とした数値である

勞 働

5-1 勞 働 時 間

(單位：1人1カ月当たり)

年 月	全産業	前月(年) 比較	鉱 業	建設業	製造業	卸 売 小売業	金融・ 保険業	運輸・ 通信業	電気・ ガス・ 水道業	所定内労働時間	
										全産業	製造業
昭和35年	191.5	...	185.6	188.9	195.6	190.9	175.6	186.9	160.4	167.2	166.9
36	190.0	△ 1.5	184.9	182.1	192.7	189.7	180.4	190.2	159.2	166.1	164.5
37	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
38	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
39	193.5	...	199.8	181.2	191.3	192.6	180.1	197.8	178.5	174.9	172.8
40	186.4	△ 7.1	199.2	174.2	180.7	197.4	166.2	192.1	174.0	172.0	168.0
41	187.2	0.8	201.0	165.7	175.4	195.4	151.8	190.3	166.6	170.7	164.3
42	191.7	4.5	193.8	161.1	196.3	191.6	169.6	194.2	176.0	171.1	174.6
43	194.1	2.4	195.8	172.4	196.5	190.2	165.4	197.0	171.1	171.2	172.5
44	191.3	△ 2.8	195.6	158.8	192.8	198.6	163.4	192.7	168.6	167.8	168.3
45	189.4	△ 1.9	195.3	192.1	189.8	188.3	171.8	193.5	172.2	169.2	168.9
46. 1	173.2	△18.9	190.3	183.6	170.0	181.7	158.5	186.7	164.0	156.2	153.7
2	189.4	16.2	195.7	195.6	191.5	193.7	153.4	186.3	162.6	169.8	171.7
3	182.8	△ 6.6	204.6	194.3	181.4	179.4	176.3	187.4	183.1	165.0	163.9
4	191.4	8.6	193.6	195.8	190.3	194.5	175.2	201.7	186.5	174.4	175.0
5	169.1	△22.3	192.1	175.2	165.0	176.5	167.7	183.8	169.5	156.3	154.3
6	191.8	22.7	200.6	198.8	192.1	191.4	176.3	194.5	175.2	175.2	176.0
7	189.0	△2.8	196.8	203.7	191.0	159.7	175.7	194.6	188.3	172.8	175.9
8	179.3	△9.7	185.0	201.3	175.6	187.1	167.0	191.9	170.8	164.3	161.7
9	188.5	9.2	195.0	200.4	187.9	195.7	160.0	193.3	160.9	171.8	172.2
10	184.2	...	188.3	...	196.4	183.3	155.2	197.8	166.6	168.8	169.5

資料：県統計課 注) 規模30人以上の事業所

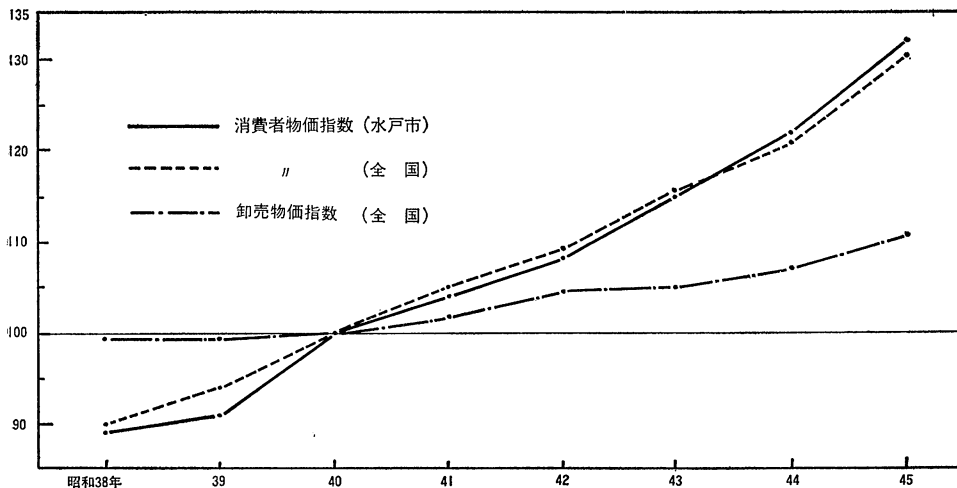
・ 賃 金 指 数

(昭和40年=100)

卸 売・小 売 業		金 融・保 險 業		運 輸・通 信 業		電 気・ガ ス・水 道 業		年 月
雇 用	賃 金	雇 用	賃 金	雇 用	賃 金	雇 用	賃 金	
7,426	29,061	5,112	41,419	19,012	40,528	1,943	55,638	基準年次実数
96.2	53.9	74.8	57.1	75.7	60.3	92.9	62.4	昭 和 35 年
109.7	57.0	84.0	61.1	89.5	66.7	88.7	67.6	36
111.5	60.7	86.9	72.4	99.8	77.4	82.8	72.1	37
110.0	59.9	92.9	79.4	117.3	83.5	76.4	72.1	38
108.7	87.9	103.4	89.5	116.6	90.3	83.5	88.9	39
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	40
87.4	99.5	90.7	105.6	82.1	111.6	115.5	115.2	41
92.6	105.9	89.1	111.1	76.0	127.9	122.3	130.2	42
102.7	128.6	87.9	142.4	76.4	145.7	122.7	140.5	43
122.0	153.0	85.5	163.0	75.1	168.5	120.8	160.8	44
212.5	195.5	187.7	194.7	129.6	198.6	133.0	179.9	45
98.5	107.9	100.9	101.4	98.4	109.6	97.9	100.8	46. 1
97.6	106.3	102.0	100.1	98.9	111.1	99.3	101.9	2
101.3	103.0	109.2	104.1	99.0	108.4	98.2	100.6	3
106.2	111.9	113.0	110.3	100.0	111.4	93.9	102.8	4
105.1	110.4	112.0	109.3	99.4	108.2	97.4	101.2	5
104.8	111.6	113.9	125.2	103.0	115.1	97.3	99.6	6
104.3	114.5	113.9	116.6	102.3	117.7	99.1	109.2	7
102.6	114.9	114.8	116.4	101.8	119.7	100.2	107.6	8
102.5	118.4	115.0	115.7	100.8	120.0	100.0	108.8	9
102.4	115.1	114.4	113.6	102.7	125.7	99.7	110.6	10

## 6 物 価

消費者物価指数と卸売物価指数の推移



### 6-2 消 費 者

#### 1. 水 戸 市

(昭和40年=100)

年 月	総 合		食 料	住 居	光 熱	被 服	雑 費
	対前月(年)比較						
品目数	362		146	45	8	62	101
ウェイト	10,000		4,074	1,161	502	1,297	2,966
昭和38年	88.7	—	85.4	92.9	99.3	88.3	90.7
39	91.5	2.8	89.2	93.4	99.3	91.1	92.8
40	100.0	8.5	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
41	104.4	4.4	103.2	105.3	97.2	103.8	107.1
42	107.9	3.5	107.1	109.2	98.4	105.3	111.3
43	114.9	7.0	115.3	116.4	99.4	110.7	118.3
44	122.3	7.4	124.1	125.8	101.1	117.8	124.2
45	132.0	8.7	135.9	138.5	103.5	126.3	131.4
46.1	138.9	2.8	144.0	146.0	108.0	136.0	135.7
2	139.0	0.1	144.9	146.1	108.0	133.2	135.9
3	138.6	△0.4	143.4	146.7	108.1	134.7	135.8
4	142.0	3.4	144.4	147.1	108.6	137.5	144.2
5	142.1	0.1	143.4	151.2	108.8	136.1	145.0
6	141.1	△1.0	140.5	151.1	109.1	137.4	145.1
7	141.9	0.8	142.2	152.0	110.3	137.4	145.0
8	142.1	0.2	142.9	152.1	110.3	136.4	144.9
9	149.0	6.9	158.1	152.4	110.3	141.2	145.0
10	149.5	0.5	158.1	152.4	111.8	144.7	145.1
11	P145.0	△4.5	P146.3	P152.7	P113.5	p146.1	p145.1
12	144.2	△0.8	143.9	152.7	113.5	146.1	145.8

資料：県統計課

物 価

6-1 費目別物価上昇寄与率（水戸市）

品 目	40年	41	42	43	44	45	46.11
総合	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	—
食料	51.8	28.9	45.7	47.4	48.2	49.9	—
主食	13.2	8.6	7.1	12.9	9.1	9.1	—
その他 の料	生鮮魚介	8.1	1.2	8.7	10.6	8.3	8.3
	肉類	0.5	1.2	4.2	4.7	3.3	3.3
	野菜	13.5	—	11.4	—	1.5	1.5
	果物	2.0	8.7	—	0.6	2.5	7.8
住居	9.0	13.6	12.7	11.9	14.7	15.3	—
家賃	5.7	7.7	3.4	2.5	1.8	3.4	—
設備修繕	0.4	4.0	8.3	8.2	10.0	7.2	—
光熱	0.4	—	1.1	1.0	1.2	1.3	—
被服	13.6	10.9	5.5	10.3	12.4	11.4	—
雑費	25.2	46.6	35.0	29.4	23.5	22.1	—
交通通信	1.4	15.1	6.2	2.4	1.3	2.8	—
教育	3.8	10.7	11.2	10.3	4.8	3.3	—
教養娯楽	14.2	19.3	15.4	8.4	11.9	8.4	—

資料：県統計課

注) 昭和40年基準

物 価 指 数  
2. 全 国

全 国 合 計	消費者物価指数 (昭和40年=100)			卸 売 物価指数 (昭和40年=100)	戦前基準指数 (昭和9~11年平均=1.0)		年 月
	対前月(年)比較	人口5万人以上の都市	東京都区部		消費者物価指数 (東京区部)	卸売物価指数	
...	...	74.0	74.0	97.9	328.0	352.1	昭和35年
...	...	77.9	77.9	98.9	345.0	355.7	36
...	...	83.2	83.0	97.3	368.2	349.7	37
90.3	...	89.5	89.6	99.0	397.3	356.0	38
93.8	3.5	92.9	93.3	99.2	413.3	356.7	39
100.0	6.2	100.0	100.0	100.0	443.2	359.4	40
105.1	5.1	105.1	104.8	102.4	464.4	368.1	41
109.3	4.2	109.2	109.1	104.3	483.5	374.7	42
115.1	5.8	115.0	115.2	105.1	510.5	377.9	43
121.1	6.1	121.3	121.6	107.4	538.9	385.9	44
130.4	9.3	130.7	130.4	111.3	577.9	399.9	45
136.2	0.1	136.6	136.6	110.9	602.2	398.6	46. 1
135.9	△ 0.3	136.3	136.1	110.7	601.0	397.9	2
135.6	△ 0.3	136.0	135.9	110.5	600.4	397.1	3
137.8	2.2	138.3	138.5	110.8	609.7	398.2	4
137.6	△ 0.3	133.0	138.1	110.8	609.1	398.2	5
137.5	△ 0.1	137.9	138.0	110.6	614.9	397.5	6
138.2	0.7	138.6	139.1	110.7	612.0	397.9	7
138.6	0.4	139.1	138.1	110.9	607.4	398.6	8
143.9	5.3	144.5	145.4	110.6	632.2	397.5	9
141.9	△ 2.0	142.5	142.4	110.0	631.1	395.3	10
140.4	△ 1.5	140.9	141.1	109.8	625.3	394.6	11
...	...	...	...	...	...	...	12

資料：総理府統計局

家 計

7 家 計

家 計 主 要 指 数

1 全 国

年 月	勤 勞 者 世 帯							全 世 帯		消費者	備考
	実 収 入 (円)	可 処 分 所 得 (1) (円)	消費支出 (円)	黒 字 (2) (円)	平均消 費性向 (3)	実 質 収 入 指 数 (4)	実 質 支 出 指 数 (4)	消費支出	エンゲル 係 数 (5)	物 価 指 数	
昭和38年	53,298	49,076	41,105	7,971	83.8	90.6	92.2	40,246	38.7	90.3	
39	59,704	54,873	45,511	9,362	82.9	97.8	98.3	44,481	38.1	93.8	
40	65,141	59,557	49,335	10,222	82.8	100.0	100.0	48,396	38.1	100.0	
41	71,347	65,073	53,599	11,474	82.4	104.2	103.3	52,516	37.3	105.1	
42	78,725	72,039	58,763	13,276	81.6	110.6	109.0	57,071	36.8	109.3	
43	87,599	80,416	65,477	14,939	81.4	116.9	115.3	63,607	35.5	115.1	
44	97,667	89,865	72,603	17,262	80.8	123.8	121.6	70,386	34.6	121.1	
45	112,949	103,634	82,582	21,052	79.7	133.0	128.4	79,531	34.1	130.4	
45. 12	266,450	245,392	134,312	111,080	54.7	303.4	201.9	122,985	31.3	134.8	
46. 1	91,618	83,872	77,752	6,120	92.7	103.3	115.7	76,473	30.5	136.2	
2	91,157	83,284	73,742	9,542	88.5	102.9	109.9	72,386	34.9	135.9	
3	107,124	97,636	90,540	7,096	92.7	121.2	135.3	87,406	32.4	135.6	
4	98,837	89,343	88,157	1,186	98.7	110.1	129.7	85,896	32.5	137.8	
5	97,181	88,810	82,679	4,131	93.1	108.4	121.8	81,328	35.8	137.6	
6	160,706	147,675	91,927	6,131	62.3	179.4	135.5	85,531	33.4	157.5	
7	147,313	135,024	98,395	36,629	72.9	163.6	144.3	92,234	32.0	138.2	
8	109,841	101,140	90,963	10,177	89.9	121.7	133.0	86,062	34.0	138.6	
9	100,750	92,648	84,223	8,425	90.9	107.5	118.6	81,374	36.0	143.9	
10	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	

2 水 戸 市

昭和38年	67,692	61,266	44,260	17,006	72.2	108.0	92.5	40,899	34.2	88.7
39	64,909	59,002	48,315	10,687	81.8	100.4	97.9	45,445	35.9	91.5
40	70,600	63,966	53,892	10,074	84.2	100.0	100.0	49,643	35.5	100.0
41	79,293	71,153	57,745	13,408	81.1	107.5	102.5	52,952	35.5	104.4
42	86,917	78,824	62,943	15,881	79.8	113.7	107.8	59,567	34.2	107.9
43	91,826	84,035	68,285	15,750	81.3	113.2	110.3	64,906	33.1	114.9
44	98,937	88,721	73,957	14,764	83.4	114.6	112.2	71,823	31.8	122.3
45	116,677	106,180	86,608	19,572	81.6	125.2	121.7	84,993	30.1	132.0
45. 12	290,572	263,447	132,698	130,749	50.4	302.4	180.9	27,406	27.5	136.1
46. 1	109,813	99,938	76,337	23,601	76.4	111.9	101.9	174,135	30.6	138.9
2	97,951	88,411	80,648	7,763	91.2	99.7	107.6	76,604	30.8	139.0
3	116,456	105,312	101,585	3,727	96.5	119.0	136.0	94,281	27.9	138.6
4	104,552	89,523	88,735	788	99.1	104.2	115.9	86,917	29.8	142.0
5	105,321	96,152	85,919	10,233	89.4	105.1	112.2	84,027	33.2	142.1
6	202,826	184,858	97,732	87,127	52.9	203.6	128.5	86,602	30.3	141.1
7	146,487	132,515	98,593	33,922	74.4	146.2	128.9	98,593	26.2	141.9
8	117,325	107,056	92,669	14,386	86.6	116.9	121.0	86,576	30.9	142.1
9	103,263	94,637	84,842	9,795	89.7	98.2	105.7	79,450	35.5	149.0
10	...	...	...	...	...	...	...	...	...	149.5

資料：総理府統計局 注) (1) 実収入－非消費支出 (2) 可処分所得－消費支出  
 (3) 消費支出÷可処分所得 (4) 当該項目(40年=100)÷消費者物価指数  
 (5) 食料費÷消費支出

1ヵ月1世帯当たりの収入と支出（勤労者世帯）

水 戸 市

収 入

年 月	集 計 世帯数	世 帯 人員数	世帯主 の年齢	収入(支出)		実 収 入	勤め先収入	事業・内 職 収 入	他 の 実収入	実収入以 外の収入	前月から の繰入金
				総 額	円						
昭和38年	61	4.24	42.6	93,967	67,692	55,464	1,607	10,621	10,101	16,174	
39	57	4.26	42.5	96,413	64,909	59,058	1,069	4,782	15,521	15,983	
40	57	3.99	42.2	108,204	70,600	64,756	1,921	3,923	19,483	18,121	
41	54	3.99	41.7	115,607	79,293	74,295	1,112	3,886	14,704	21,610	
42	54	3.88	42.0	125,294	86,917	80,407	1,804	4,646	18,087	20,289	
43	58	4.05	41.5	133,352	91,826	87,176	1,284	3,366	16,143	25,382	
44	67	3.89	41.8	149,178	98,937	88,203	2,272	8,462	22,877	27,365	
45	73	3.86	41.2	172,987	116,677	103,261	2,699	5,716	23,252	33,059	
46.1	61	3.99	44.1	163,814	109,813	98,485	636	10,692	16,728	42,273	
2	68	3.96	44.1	166,388	97,951	93,210	1,489	3,252	25,273	43,165	
3	68	3.93	43.7	193,092	116,456	105,949	1,786	8,720	36,215	40,421	
4	67	3.90	42.3	167,789	104,552	95,316	1,755	7,481	28,167	35,070	
5	67	3.90	42.2	154,575	105,301	92,660	4,842	7,799	14,749	34,525	
6	65	3.89	43.3	263,639	202,826	193,297	3,728	5,801	29,246	31,568	
7	63	3.78	44.7	213,863	146,487	136,370	7,111	3,005	26,466	40,911	
8	66	3.82	44.3	179,375	117,325	99,734	2,369	15,222	24,460	37,891	
9	67	3.91	43.4	166,001	103,263	89,282	3,498	10,483	28,893	33,845	
10	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	

支 出

年 月	実支出	消 費 支 出						非消費 支 出	実支出 以外の 支 出	繰越金	現 物 総 額	備 考
		計	食料費	住居費	光熱費	被服費	雑 費					
昭和38年	50,686	44,260	14,488	5,172	1,928	5,428	17,244	6,426	26,039	17,242	3,418	
39	54,222	48,315	15,487	6,158	2,147	5,936	18,587	5,907	25,086	17,105	3,710	
40	60,526	57,892	17,182	6,698	2,414	6,725	20,873	6,634	28,330	19,348	4,269	
41	65,885	57,745	18,308	5,629	2,650	6,677	24,481	8,140	28,492	21,230	3,879	
42	71,036	62,943	16,637	6,411	2,799	7,150	26,947	8,092	32,615	21,643	4,277	
43	76,668	68,285	21,503	7,712	2,642	7,624	28,804	8,383	31,295	25,389	4,906	
44	81,659	73,957	21,938	9,389	2,775	8,023	31,852	7,702	37,692	29,826	4,648	
45	97,105	86,608	25,014	9,258	3,190	10,385	38,761	10,497	42,794	33,088	5,477	
46.1	86,213	76,337	22,540	5,122	4,005	7,147	37,524	9,875	36,706	45,895	7,537	
2	90,188	80,648	23,817	4,179	4,327	9,522	38,802	9,540	37,113	39,087	5,453	
3	112,719	101,585	25,519	7,864	4,557	12,227	51,419	11,134	42,099	38,273	6,058	
4	103,764	88,735	25,479	9,232	3,101	10,886	40,036	15,029	27,051	36,974	6,551	
5	95,088	85,919	27,606	4,210	2,680	8,596	42,827	9,169	29,047	30,441	6,231	
6	115,699	97,732	26,624	7,748	2,545	10,411	50,404	17,967	106,967	40,973	6,765	
7	112,568	98,593	25,794	11,883	2,468	9,402	49,046	13,972	60,857	40,441	11,752	
8	102,939	92,669	26,462	11,120	2,444	7,104	45,540	10,269	40,895	35,842	5,678	
9	93,468	84,842	27,640	8,171	2,321	12,029	34,681	8,626	39,613	32,921	4,678	
10	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	

注) 集計世帯数, 世帯人員数, 世帯主年齢は支出にも該当する。



# 将来労働力の動向と労働統計

労働大臣官房労働統計調査部雇用統計課長

(現総理府人事局参事官)

梶 谷 浩

## 労働力の過剰から不足への移行

従来、供給超過の状態にあつた労働力需給は、昭和30年代に入つて高い経済成長の持続を背景に労働力不足へと移行していった。特に、昭和30年代の後半、製造業を中心に雇用拡大が行なわれ、その需要は新規学卒者に集中した。このため、求人難はまず、新規学卒者からはじまり、これらの求人難が深刻化するに伴い需要は学卒以外の労働力にも向けられ、新規学卒者を除く一般の労働力においても労働力不足の様相を帯びるに至つた。

すなわち、昭和33年当時、新規学卒者の求人倍率は、中学卒1.2倍、高校卒1.1倍と需給はほぼ均衡していたが、その後、年々求人が上回るようになり、昭和45年には中学卒6.5倍、高校卒6.5倍と新規学卒者の求人は至難の状況になつてしまつた。学卒を除いた一般求職者についても40年代に入つてから求人が上回り最近では一部高令層を除きほとんどの年令層で求人超過傾向を示している。

もつとも昭和45年秋以降の景気停滞に加え、円の変動相場制への移行等の影響により、新規学卒求人の取消しなどがあり、そのうえ最近円の大幅切上げが重なり、労働力需給は短期的には幾分緩和傾向にあるものの、長期的には少なくとも昭和40年以降はこれまでになつたような労働力の構造的変化が生じており、今後労働力不足はますます深刻になつていく見通しである。

## 労働力の将来動向

第1の変化の要因は労働力人口の増加率が目立つて鈍化することである。

労働省職業安定局の推計によると、今後昭和55年までこの10年間は、20年代後半からの出生率低下の影響を受けて労働力人口の平均増加率は年率0.8%と予想されている。これは昭和30～35年の年率1.4%、35～40年の1.2%、40～45年の1.4%という実績と比較してもかなり低い水準である。

第2の変化の要因は、労働力人口の高令化が著しく進むことである。

昭和45年に労働力人口の約22%を占めていた24才以下の若年層は55年には13%とその比重が大きく低下するのに対し、45才以上の高年令層は31%から38%へとその比重が上昇し、労働力人口の約4割が45才以上の高年令者によつて占められることとなる。しかも若年労働力はその比重が低下するばかりでなくその絶対数においても今後減少傾向を示し、逆に中高年労働力においてはその数

がさらに増大する。

今後このような労働力人口における年令構成の激変に伴い、若年労働力人口の不足による様々な困難が増大する一方、中高年令者の増大についてもこれらの世代が一般的に新しい技術に対する適応力が低く、また職業転換能力が若年層にくらべ限定されがちであるということから、これらの人々の就業が重要な問題となるばかりでなく、従来の年功的雇用、賃金慣行や定年制等についても今後再検討をせまられることは心至である。

第3の変化の要因は、新規労働力の学歴構成が高まると同時にその絶対数が減少することである。

新規学卒就職者の数は、学歴を問わない総数においても41年卒の150万人をピークに減少を続け、46年卒では125万人に減少し、50年には114万人程度に減少する。以後は低水準で横ばいに推移するものと見込まれている。一方、進学率は年々上昇傾向を示しており、昭和46年3月には中学から高校への進学率は85%にも達し、大学、短大への進学率も高校卒業者の4分の1強の26.8%となつている。この進学率の上昇は今後も続くものと予想される。

また、新規学卒就職者の学歴別構成をみると、昭和45年に中学卒就職者数が大学卒就職者数よりも少なくなつたが、今後この傾向は持続し、大学卒等就職者は増加傾向を示し、新規学卒者全体に占める割合が拡大するのに対し、中学卒就職者は減少し続け、中学卒就職者の新規学卒就職者全体に占める割合は45年に21.3%であつたものが昭和55年には8.4%にまで低下することとなる。

このように中学卒就職者は今後ますます減少する見込みであり、中学卒労働力の不足は激化の一途をたどるものと思われる。一方、高校卒業生数はほぼ横ばいであり、大学卒労働者数は今後増加する見込みであるので、一般的に新規学卒の労働力不足基調の強まるなかで、この高学歴化はブルーカラー要員の不足にさらに輪をかけた「不足の中のアンバランス」を促進することとなるものと考えられる。

第4の変化の要因は、従来、工業部門およびその関連部門への主要な労働力供給源であつた農林業など第1次産業就業者がすでに著しく減少してしまつている上に女性化、老令化しており、この部門からの非1次産業への供給余力はあまり残つておらずこの部門から非1次産業への労働力供給を期待することはむずかしい状態にあることである。

今後、第1次産業就業者はさらに減少すると予想されているものの、労働力の重要な供給源としての地位は他

にゆずらねばならない状態である。

さらにいうならば、今後労働時間が引続き短縮することから労働力不足は実質的にはなおきびしくなるということが指摘されねばならない。

### 人口移動および工業の立地動向

つぎに労働力の今後の動向をみきわめる意味において地域的問題としての人口移動（労働力移動）および工業の立地動向を概観しよう。

昭和30年代の人口移動はさきわめて激しかった。この人口移動の結果、東京、大阪、名古屋を中心とする大都市圏域に人口が集中した。その全国における割合は、昭和30年の38.3%から、40年には44.9%へと高まった。この人口移動は、昭和30年代のわが国経済の高度成長によって産業構造が大きく変わったことが主な原因であり、従ってこの人口移動の中心は労働力であった。労働力人口は、昭和30年から40年にかけて全体で21%の増加であったが、3大都市圏ではこの10年間に東京圏57%増、中京圏30%増、阪神圏49%増ときわだつて高い伸び率を示している。

この3大都市圏への労働力集中は、若年層を中心に行なわれ、その結果、他の地方では若年層の流出により老令化が進行した。事実35年から40年の間に3大都市圏に移動した人口約80%が15才～34才の若年層であった。これらの移動を可能にした基本的要因は、需要側については産業の集中に伴う大都市地域での雇用機会の増大であり、供給側についてはそれに対応する若年労働力の供給が相対的に豊富であったことである。

このように昭和30年代に入ってから、大都市への人口と産業の集中が激しかったため、30年代後半頃から大都市地域においては、交通問題、公害問題、通勤、住宅問題等外部経済上の不経済が表面化し過密による弊害が生じはじめた。

このため、従来の人口の大都市集中の傾向に変化がはじかれ、大都市の中心部よりはむしろその周辺の人口増加が目立つようになり（いわゆるドーナツ化現象）、また、大都市からあるいは周辺部から地方へ逆流出するいわゆるUターン現象がみられるという新しい傾向が生じた。これまでの人口移動の中心は、経済的動機が支配的な形態のものであったが、今後は単に経済的欲求のみならずさらに生活環境に対する欲求等意識の変化に伴う、より高次の欲求が人口移動の重要な契機となってくるものと考えられる。また、これまで工業は大都市地域に集中する形で発展してきたのであるが、既成工業地域においてデメリットが増大する一方、その他の地域でも社会資本整備の進展、交通通信手段の発達等もあつて工業立地においてももしい方向変化が生じている。

たとえば岡山県水島、広島県福山、大分などの遠隔地において製鉄所の建設が行なわれる一方、大都市圏に近い地域でもこれまで比較的工業開発の遅れていた茨城県鹿島、千葉県君津などへの立地もみられ、さらには全国総合開発の見地から現在、調査・検討が進められている

大規模工業基地開発プロジェクトについてみても、むつ・小川原湖（東北）、志布志湾地区（南九州）など工業立地は一段と遠隔化を指向しつつあり、今後さらに交通通信網が整備され地方における都市集積が増大することによって従来、都市型産業として大都市に立地していた機械工業までも地方を指向するという動きもみられるようになるものと考えられる。

以上のように、労働力人口の地域的動向には微妙な変化が現われはじめており、今後いわゆる巨帯地域への集中という意味での集中の方向が簡単になるとは考えにくいのが、従来のような「点」に対する集中の傾向はかなり修正されざるを得ないであろう。

### 茨城県の今後の動向

なおここで茨城県の人口移動の傾向をみると、全国的に人口の大都市集中現象が生じはじめた昭和30年代前半は減少傾向を示したものの、昭和30年代の後半になると若干ではあるが人口は増加傾向を示した。

この人口の増加傾向はその後も持続し、最近の昭和40年～45年の5年間には4.2%の増加を示している。この増加率は、同期間の全国平均の伸び率5.5%にはおおよばないものの、大都市圏域を除いた地域としてはかなり高い伸び率である。

人口移動の一面を示すと思われる新規学卒者の県外就職率をみても、従来上昇傾向にあつた県外就職率は、中学卒、高校卒とも昭和41年をピークとしてその後、減少傾向をみせ、とくに中学卒では昭和44年以降全国平均を下回るというこれまでにない傾向を示している。

このことは、茨城県が大都市圏の隣接地域であるという地理的条件が昭和30年代はマイナスの要素として作用していたが、昭和40年代に入つてからは、かえつてそのことがプラスの要素に変化したことを物語っている。

このことは、上記の「点」への人口集中の修正の傾向とともに茨城県の今後を示唆していると思われる。

さらに、茨城県の労働力需要からみても、全国平均以上の割合を占めている第1次産業は今後も減少を続けるであろうが、水戸、日立を中心とする都市地域の拡大、鹿島、筑波など開発進行地域の発展などとあわせて、社会資本の整備、交通通信網の拡充に伴い、大都市の隣接地域であるという有利性が働き、非1次産業においては労働力需要は高水準に推移するものと想定される。

しかし、茨城県においても今後労働力人口の伸びが鈍化し、その年令構造も高令化の方向をたどり、新規学卒者を中心とする若年労働力が減少するとともにその学歴構成が高まることなど労働力をめぐる変化要因は基本的には全国とほぼ同様と考えられ、茨城県においても今後労働力不足対策に万全を期す必要にせまられることは自明の理といつてもいいすぎではなからう。

# 茨城の産業構造 (その1)

経済企画庁総合開発局

総合開発課専門調査員 小林英男

## はじめに

異なる国民経済間の比較分析を行なう場合においても、あるいは同じ国民経済の地域間の比較分析の場合においても、経済の規模なり、動的な動きなりを的確に把握するための基礎的な経済データは実質総生産にかんする統計である。しかし現行の県民所得統計においては、実質国民総生産についての統計はなく、わずかに名目の県内純生産と県民所得にかんするデータが利用可能であるにすぎない。しかもそれらは推計方法が一定でないため厳密な比較分析にたええないばかりでなく、時系列的にも昭和40年度から昭和43年度までしか利用可能でなく、時系列分析の用には全く役に立たない。このため各都道府県の経済水準やその動きを的確に比較分析することは現状ではほとんど不可能に近いが、一応純生産と分配所得にかんするデータがあるので、それらによつて、茨城県を中心としたクロス・セクショナルな比較から、茨城県経済の相対的なしかも大まかな位置づけを行なつてみると、第1表に示すように、県民1人当たりの県内純生産や県民所得の水準から推測するがぎり茨城県の経済は全国的にもあるいは、関東内陸ブロックのなかにおいても相当に低い活動水準にあるとみられよう。すなわち、43年度時点で、茨城県の県民1人当たりの県内純生産は約331千円、1人当たりの県民所得は約336千円でいづれも山梨県につぐ低さとなつている。

第1表 県民1人当たりの県内純生産と県民分配所得 (43年度) (単位：千円)

区 分	県内純生産	県民分配所得
全 国	433	426
関 東 内 陸	344	344
茨 城	331	336
栃 木	353	357
群 馬	375	381
山 梨	299	316
長 野	345	335
関 東 臨 海	570	565

- (備考) 1. 経企庁「改訂県民所得統計」および総理府統計局「都道府県人口の推計」より作成。  
 2. 県民所得統計は推計方法が各県によつて異なるため、本来は合算することは当をえないが、この点を無視した。  
 3. 純生産と分配所得は年度ベース、推計人口は歴年ベースであることに注意。  
 4. 地域区分は以下のとおり。  
 関東内陸＝茨城、栃木、群馬、山梨、長野  
 関東臨海＝埼玉、神奈川、千葉、東京

このように茨城県経済の水準は全国的にもあるいは、関東内陸ブロックのなかにおいても低い方のランクに属するわけであるが、その最大の要因は何んといつても産業構造の発展が他の諸県にくらべ相対的に遅れた段階にあることによると考えられる。そこでこの小論では、焦点を茨城県の産業構造にあて、全国平均あるいは同一ブロック内の他の諸県との比較によつて、茨城県の産業構造の特徴を浮彫りにしてみようと思う。最初にマクロ的な産業構造の特徴を指摘し、ついで主要な産業である製造工業、農業、商業・サービス業の特徴を指摘してゆきながら全体としての茨城県の産業構造の特質を導き出す予定であつたが、今回は筆者の怠慢からマクロ的な考察と製造工業にかんする指摘だけに止めざるをえなかつたことを、あらかじめおわびしておきたい。

## 1 マクロ的にみた茨城県の産業構造

県内純生産の産業別構成(第2表)によつて、茨城県の産業構造の特徴をみてみると以下の2点が指摘できよう。すなわち第1に、第一次産業の比率が20%と全国平均の8.5%や関東臨海部の2.3%にくらべいじりしく高

第2表 県内純生産の産業別構成 (43年度)

(単位：%)

区 分	第一次産業	第二次産業	第三次産業
全 国	8.5	39.0	52.5
関 東 内 陸	16.4	38.6	45.0
茨 城	20.0	40.7	39.3
栃 木	16.2	39.3	44.5
群 馬	12.8	40.5	46.7
山 梨	14.7	26.0	59.2
長 野	16.8	38.4	44.8
関 東 臨 海	2.3	41.9	55.7

- (備考) 1. 経企庁「改訂県民所得統計」より作成。  
 2. 県民所得統計は推計方法が各県によつて異なるため、本来は合算することは当をえないが、この点を無視し合算をした。  
 3. 地域区分は以下のとおり。  
 関東内陸＝茨城、栃木、群馬、山梨、長野  
 関東臨海＝埼玉、神奈川、千葉、東京

いことである。そして、それは同じように第一次産業比率の高い関東内陸ブロックの諸県(茨城、栃木、群馬、山梨、長野の諸県)とくらべても最も高い。第2は、第二次産業の比率が意外なくらい高いことである。茨城県の第二次産業の比率は約41%で、これは全国平均の39%より高く、関東臨海部の約42%とはほぼ同じ水準である。ま

た関東内陸ブロックの諸県についてみると、茨城県は群馬県と並んで第二次産業の比率が高い。群馬県の場合は第一次産業の比率が茨城県にくらべ大幅に低く、この点茨城県と群馬県とは第二次産業比率は同じレベルではあるが、経済の発展段階論的には異なつた意味を有しているようにみられる。

産業構造の発展は一般に、生産の中心が、第一次産業から第二次産業へ、ついで第二次産業から第三次産業へと産業間を移行してゆくという形態をとりながら発展してゆくといわれているが、このような観点に立つて茨城県の産業構造の発展段階を類推してみると、茨城県は関東ブロックの諸県のなかでは比較的遅れた発展段階にあるとみられよう。このことは第3表の就業構造の推移にはよりいつそう明確な形で現われている。

すなわち、就業者全体に占める第一次産業就業者の比率が低下し、第二次産業と第三次産業就業者の比率が上昇するという就業構造の近代化現象は茨城県においても進行しているものの、依然として第一次産業の比率が約44%ときわ立つて高く、これに対し、第二次産業就業者の占める比率は、43年で約23%と最も低く、関東内陸諸県のなかでももつとも第一次産業に偏した就業構造となっている。

以上のマクロ的な考察から茨城県の産業構造の特徴を

第3表 就業構造の推移 (単位：%)

区 分	第一次産業		第二次産業		第三次産業	
	34年	43年	34年	43年	34年	43年
全 国	37.5	22.1	26.1	33.5	36.4	44.3
関 東 内 陸	53.6	36.6	18.6	28.1	27.9	35.3
茨 城	60.5	44.1	15.1	22.9	24.4	33.0
栃 木	50.9	34.0	19.8	30.0	29.2	36.0
群 馬	47.4	31.3	22.5	31.6	30.1	37.1
山 梨	49.0	32.5	20.7	29.5	30.3	38.0
長 野	54.8	36.7	17.4	28.6	27.8	34.8
関 東 臨 海	17.5	8.3	34.7	37.5	47.8	51.4

(備考) 1. 総理府統計局「就業構造基本調査」  
2. 地域区分は第1, 2表に同じ

摘出してみると、およそ以下のとおりである。すなわち、茨城県の産業構造はその中心が第一次産業から第二次産業へと移行しつつあるものの、依然として第一次産業の地位が他の関東ブロックの諸県にくらべて高く、発展論的には、第一次産業から第二次産業への移行が完全には完了しきつていない段階にある。先述したような県民1人当たりの純生産や所得水準の低さはこのような産業構造や就業構造の発展の遅れによるものであろう。

## 地域農業の問題と農林統計 (その2)

農林省統計調査部管理課課長補佐

小 山 智 士

### 進捗しつつある地域統計の整備

前号までに述べたような情勢下にあつて、農林省統計調査部において具体的にどのようなかたちで地域統計を作成しつつあるかについて以下、若干ふれておきたい。

地域統計については、従来からも一部の項目について作成されてきたが、総合的なものとしては、5年毎に実施されているセンサス関係の統計が唯一のものであつた。昭和37年からは県の中を2~3の農業地域(全国で150の県内農業地域)に区分し、また経済地帯(都市近郊、平地農村、農山村、山村)に区分して、その地域地帯ごとの統計を作成するいわゆる「地域農業動向の総合把握」を実施してきた。しかしながら、諸地域計画関係法に係る地域行政との調整対策と「総合農政、構造政策」等の関連行政の多岐化にともない、これらを遅滞なく企画行政目的への適応体制を整備するために、つぎのような対応措置を講じた。

(1) 従来「地域農業動向の総合把握」に関連して作成した全国画一的な地域統計のみでは、多岐化した行政需要に応じ得ないところからこれを発展的に解消する。

(2) 市町村単位の統計を重視することとし、農業および農村社会に関する統計を、行政の実施主体である全市町村について、時系列的に統計を整理、蓄積するために市町村統計台帳を新たに作成する。

(3) 上記(2)を利用して市町村の農業的性格、生産作目の経営経済的性格、社会構造的な性格等をあきらかにし、諸行政需要への適応をはかる。

(4) 国および地方の各種行政目的ないし視点に合わせて市町村を単位とする等質的な地域、地帯を弾力的に編成し、それらの地域、地帯別に必要な統計を作成する。

(5) 上記(4)の地域、地帯について、農林統計のみならず他省庁の市町村別統計等を総合的に利用して、必要とされる分析を行なうとともに、行政対象数ならびに客体の構成とその構造的変化を明らかにする。

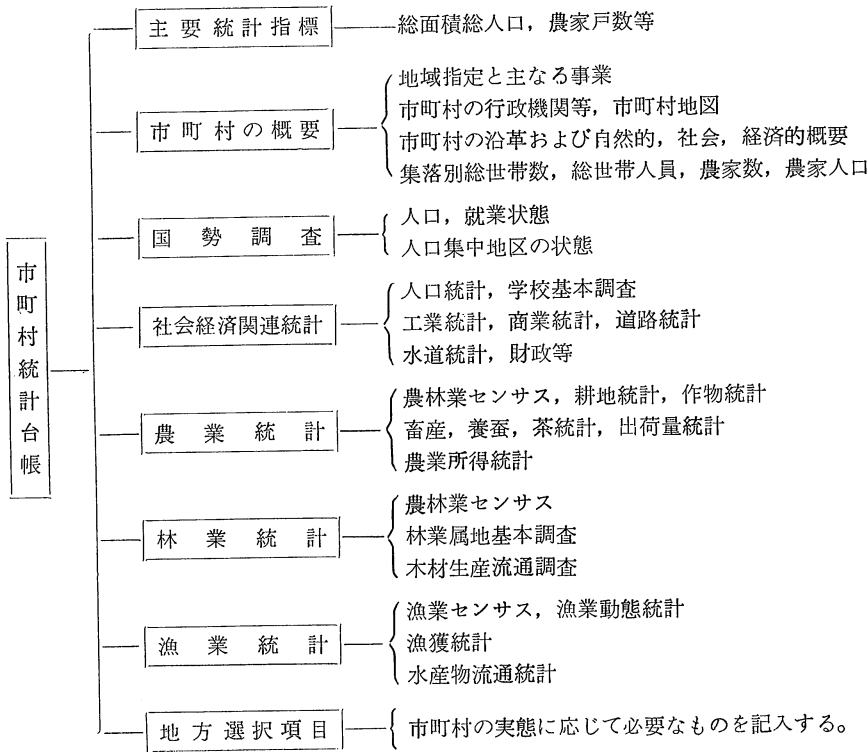
このような措置によつて、各種行政の企画、立案はもちろん、その戦略的实施に至るまで一貫的に関連して利用し得る行政的基礎資料を整備するとともに、行政執行の事後におけるその効果の客観的判定の資料としても役立つ統計を作成することとなり、このために必要な経費も「地域構造分析に必要な経費」として46年度に認めら

れ、上記5つの措置にしたがって着々実施してきている。なかでも「市町村統計台帳」は画期的なもので、各方面からその利用について要望が寄せられている。

この台帳に掲載されている項目は農林漁業関係はもとより、広く社会経済関係の統計も収録してある。つまり

現段階ではもはや農業問題は農業内部構造の究明ばかりでは解決できない段階にきており、ひろく他産業との関連、都市と農村とを相互関連させて考えなければならないという考え方に立つたものである。この台帳の編成内容は別表2のとおりである。

別表2 市町村統計台帳編成内容の概要



また、この台帳には時系列的に統計を整備するために、昭和35年から掲載することにしてあり、45年末から整備を進め、現在は現時点までの数値の整備がほとんど完了している。この台帳は昭和45年10月1日現在の各市町村ごとに1冊とし、統計調査事務所の出張所に、管轄する市町村分を保管することにしてあり、利用者に対してはいつでも利用できるようにしている。また、この台帳の整備を続ける一方では、これらの統計を利用して、本省、地方農政局、統計調査事務所あるいは出張所においては地域問題を独自の立場から分析して刊行している。例えば45年度には、本省では主要作目の特化係数からみた市町村の性格を分析し「日本農業の地域構造」として刊行している。また、関東農政局では「都市化と農業の変ぼう」と題して目でみる分析を行なっている。茨城では「図説茨城農業の動き」（45年2月）、「茨城県農業の動き」（46年3月）などを刊行している。

おわりに

47年度において、この地域構造分析の経費も大幅な拡充が認められ、名称も「地域構造に関する統計調査分析

に必要な経費」（総額101,780千円）として発足することとなった。とくにこの経費の1つの柱である地域農業開発等に関する統計調査・分析費（総額71,736千円）は、地域農業開発に必要な統計調査を毎年地方農政局統計調査部において3テーマについて調査を企画設計し、とりまとめ、各県統計調査事務においては、都道府県において必要と思われる2テーマについて調査を行なうとともに、既存資料を利用した分析を地方農政局統計調査部2テーマ、統計調査事務所2テーマ、同出張所1テーマずつ行なうという経費である。つまり、地域農業開発に寄与するための地域統計づくりと資料整備に本格的に国が乗り出し、地域問題に正面から取り組むこととなったのであり、今日要請されている新しい地域社会の構想を考えるにあたって、地域計画時代にふさわしい地域統計の確立に乗り出した意義はまことに大きいといえよう。このさい、都道府県関係の方々、さらに市町村関係の方々のご協力を切に望む次第である。（おわり）

# 退 任 の あ い さ つ

前県統計課長 田 口 源 治

このたび、一身上のつごうにより1月31日付をもって統計課長と県統計協会副会長の職を去ることになりました。今後は、全く未知の分野である鹿島臨海鉄道株式会社に勤務することになりましたが、時と所を問わず旧に倍するご交誼とご教導をお願い申し上げます。

統計業務を担当して2年8カ月の間、微力ながら職務を果たすことができましたことは、先輩各位をはじめ統計関係者のみなさまの暖かいご支援とご助言によるものであり、深く感謝申し上げます。

顧みますれば、昭和44年6月1日就任いたしましたから、70年世界農林業センサス、45年国勢調査等の重要な調査、各種刊行物の整備充実、統計職員の資質の向上を図るための統計解析研究会の開催、同じく統計調査員を対象とした統計調査員研修会の開催、統計思想の普及を目途とした統計グラフ巡回展示会の開催等々みなさまとともに歩んできた業務のかずかずが次々と想い起されます。

県庁在職38年の最後の勤務箇所である統計課は生涯でも最も良い思い出の場となりました。今にして思えば、私なりに考えましたことや、みなさまから寄せられたご

希望などを完全に実現し得なかつたことを思い、心残りを感じます。しかし、後任の課長事務取扱として児玉企画室長を迎え、安心して退任できますことをうれしく思います。

今日、統計は行政上緊要であることはもちろん、企業、学校、一般のかたがた等にとつても必要欠くべからざるものとなり、統計の利用者は急速な増加をたどっております。

また、ますます精度の高いじん速な統計の作成が各界から要請されているのが実情であります。

この要請に応えるためには統計調査の実施にあたりましても、より高度な科学的技術と知識が必要とされ、みなさまにおかれましてはご負担も倍加されると思われまます。どうか、統計行政の推進のため、いつそのご精進を積まれ本県統計の進歩と発展に大きな足跡を残されまことを願つてやみません。

最後に、在職中、微力な私に寄せられましたご厚誼に対し、重ねてお礼申し上げますとともにみなさまのご活躍をお祈り申し上げまして退任のあいさつといたします。

## 統計ニュース

### ◇ 3月の主な行事 ◇

- 2～3日 小売物価統計調査閣プロ会議
- 15～16日 県民所得推計講習会

- 22日 茨城県統計協会理事会
- 23～24日 統計グラフ指導者講習会

### 統計課長の異動

田口源治統計課長は1月31日付をもって退職し、かわつて、児玉雅雄企画室長が統計課長事務取扱となりました。

## 昭和47年版 茨城県勢要図

予 約 募 集 中

お申込みはお早目に

定 価 120円  
配 付 予 定 昭和47年4月中  
予 約 受 付 締 切 期 昭和47年2月末日

申 込 先 水戸市三の丸1-5-38  
茨城県統計課内 茨城県統計協会  
電 話 0292 (21) 5505  
0292 (21) 8111 内線 420